

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社 共壽		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町村受理日	令和5年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyoCd=2192100150-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyoCd=2192100150-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各利用者様の生活歴、生活習慣、嗜好等の把握に努め、日常生活の中に取り入れケアに繋げている。</li> <li>・毎月、行事を計画し実施している。季節を感じて頂けるような催しや行事食、おやつを提供し楽しんで頂けるよう取り組んでいる。</li> <li>・保育園児やボランティアの方等とのふれあいを大切にしている。</li> <li>・重度の利用者様も入居していらっしゃる、看取りケアも行っている。穏やかに安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に基づいた年度目標をユニット毎に立て、事業所の目に付く場所に掲示し日々のケアに繋げるようにしている。利用者個々の生きがいや楽しみとなるように、洗濯物干しやたたみ、拭き掃除等の家事を一緒に行い、毎月の行事やレクリエーションへの参加で心身機能の維持にも努めている。身体拘束や虐待にあたるケアを行っていないかを、利用者毎に定期的にチェックし、委員会で検討し職員で共有し不適切ケアに繋がらないようにしている。虐待の芽と気づくように、隔月に啓発ポスターを作成し、事業所全体で虐待防止に取り組んでいる。毎日の食事は、ユニット毎に好みを取り入れ、すべて手作りで提供している。プランターで育てた野菜や移動販売の野菜を利用し、美味しく食べる楽しみを大切に支援している事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議（現在は各ユニット毎）にて、理念の唱和と職員の心得の唱和をしている。又、職員の目の付く場所に掲示し理念の浸透を図り日頃のケアに繋げている。	毎月のユニット会議時に、理念を唱和し話し合いをしている。トイレやロッカー等の目に付く場所に、理念を掲示し意識し実践できるようにしている。ユニット毎に理念に基づいた年度目標を作成し、年度末に振り返り、次年度の目標に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩や保育園、小中学校との関わりが持てるように取り組んでいる。	近くの保育園に散歩を兼ねて訪問したり、運動会の練習風景や園児の遊ぶ様子等を見学している。園児が事業所を訪問時は、手紙や花をもらったり歌を歌ってもらっている。小中学生とは、暑中見舞いのやりとりで交流している。今後、職場体験の受け入れ予定がある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面にて報告を行い、返信にてご意見やご要望をお聞きしていた。今年度は6月末より対面での会議を再開することとなった。ご意見を頂き、今後活かせるよう取り組んでいる。	書面開催時は、事前に封書や電話で意見を求め、報告書を送付していた。6月から対面での会議を開催している。警察や消防署員の参加があり、緊急時の連絡方法等について、助言をもらい運営に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢課、地域包括と連携を取り合えるようにしている。運営推進会議に担当者の方に出席（返信）頂き対応をお願いしている。市事業者連絡会等への参加をし情報を得られるよう取り組んでいる。	書類提出時や市の研修参加時に、担当者に実情を伝え情報交換している。研修や会議は、ズームで参加する時もあり、通常は電話での問い合わせやメールで情報を得ている。困難事例や認知症への対処法等については、地域包括支援センターとも連携している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や委員会からの情報を基に、職員へ報告・勉強会を開催しケアに繋げている。定期的にチェックリストでの振り返りやケアの振り返りシートを活用し取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を定め、毎月委員会を開催している。利用者毎に身体拘束に当たらないかを、3ヶ月に1回チェックリストにて確認している。内容を委員会で協議し、ユニット会議で伝えたりグループラインで周知している。スピーチロックや身体拘束に繋がる事例等の研修をしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会が中心となりケアの振り返りシートの活用、適正審査会の実施を行い虐待防止に取り組んでいる。拘束や虐待に繋がらないよう取り組み、職員間でも毎月の会議で話し合いをし防止に努めている。	虐待防止マニュアルを整備し、委員会を毎月開催している。隔月に啓発ポスターを作成し、目につきやすい場所に掲示し、虐待防止に努めている。ケアの振り返りシートへの記入、ケア適正審査会での協議等、些細な行動や言動から不適切ケアを生み出さない工夫をしている。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や資料を活用し勉強会を行い、必要に応じて活用出来るよう努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時は説明を行い、書面にて承諾を得ている。ご質問等には窓口を設置し電話や対面での対応が出来るよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートの実施や運営推進会議での意見交換、面会時や電話でもご意見ご要望をお聞きし、運営に反映出来るよう取り組んでいる。	家族アンケートを年1回、無記名の郵送で実施している。面会時や電話連絡の際に直接意見や要望を聞いている。月1回、日頃の様子を記した手紙に写真を添えて送付し、意見が言いやすいきっかけにしている。出た意見は申し送りやメールで職員に伝え取り入れている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員個別面談を実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。ユニット会議でも意見交換や発言出来る場をつくり、業務の改善や運営に繋げていけるよう努めている。	管理者は職員と一緒に業務に入り、気軽に意見が言いやすい雰囲気になっている。ユニット会議で行事計画書の検討をしたり、炊飯器の買い換え、掃除しやすい備品に切り替える等の業務改善に繋がった。高額商品は本社に依頼する場合もあるが、職員の要望を取り入れる体制にしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員面談、幹部面談を行い意見や要望、提案を聞く機会を設けている。各職員の事情を踏まえた雇用形態、休日希望を配慮し働きやすい職場環境づくりに努めている。	職員面談を年2回実施し、意見や要望を聞いている。職員の体調や家庭事情に合わせたシフトや業務内容にして、休日出勤や夜勤回数への配慮等で個別に対応し、働きやすい事業所にしている。昼食代の補助、休憩時のおやつや飲み物を支給している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外部研修の年間計画を立て、参加した職員には研修費の補填、勤務時間内とし一人でも多くの職員が受講し学べる機会を確保出来るよう努めている。	ケアワーカーのキャリアアップシステムの基本方針を作成している。人材育成委員会で内部・外部研修計画を立て、職員が参加しやすいように勤務への配慮や補助を出している。ズーム研修は、事業所のパソコン借用、業務内受講を可とし、資格取得者には手当を支給している。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	執行部会議にて法人内の他事業所との情報交換や委員会を通して勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を大切にし、ご本人のご意向や思いに寄り添いながら、信頼関係を築けるよう努めている。安心して共に暮らせる関係づくりにと努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴・生活習慣、嗜好等をお聞きしご希望に添えるよう努めている。ご本人からお聞き出来ない場合はご家族や関係者の方からの情報を頂き日々のケアに繋げている。	普段の会話から好きな物や好きな事等を聞いている。入浴時や夜勤時に職員が、ゆっくり聞く場合もある。起床・就寝時間は本人の生活スタイルに合わせ、行事への参加やおやつ選択は個々に応じている。困難な人には行動や表情から把握している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議での意見を基にご本人、ご家族とお話し、より良い生活になるよう努めている。	本人や家族の希望を事前に聞き、医師やユニット職員の意見も入れて、担当者会議でケア計画を検討し、ケアマネジャーと協働で作成している。6ヶ月に1回の更新であるが、毎月モニタリングを実施し状態不変や必要に応じて見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリング、担当者会議、毎日の申し送り等で気づきを共有しケアや介護計画に活かしている。介護記録にもご本人の様子や会話した内容等を記載し日々の様子が分かるようにしている。	薬や食事内容の変更等も含めて、毎日の様子や変化を介護記録に記載し、朝夕の申し送りで伝達している。申し送りノートでの周知と職員間のグループラインも活用し、情報を共有しながら実践している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご要望をお聞きしながら、施設で対応出来るサービスを検討し取り組んでいる。	利用者への個別のニーズには、それぞれに対応している。水害時等における地域住民の受け入れは可としている。今後、事業所の機能を活かして、サロンの実施等を模索しているが、具体的な準備までには至っていない。	これまでに培ってきた地域での交流関係を土台に、事業所の特性が発揮できる場となるように、今後企画実現できることを期待したい。

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防の巡回、意見交換をさせて頂き、安心・安全に暮らせるよう支援している。感染状況を見ながら今後はボランティアや地域との関わりを持っていきたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定を行い、異常の早期発見に努めている。定期的な往診を受け、日頃の体調管理に努めている。必要時には専門医療機関に受診出来るよう支援している。	入居時に、本人や家族の希望で、月2回の訪問診療と事業所との連携ができていた協力医に変更する人が多い。歯科や他科受診の場合は、看護師が付き添い、家族と一緒に受診の支援をしている。家族が同席できない時は、受診後に看護師が状態を説明している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は看護サマリーや介護計画書を持参し病院と情報共有を行い連携に努めている。退院後も施設での生活に困られないよう病院、主治医との連携を図っている。	利用者が入院時は、家族に今後の意向を確認し、病院に伝えている。事業所に早く戻れるよう、面会ができる病院には面会に行き、地域連携室の職員から直接情報を得たり、随時連絡を入れて情報交換している。退院カンファレンスに参加し、看護サマリーをもらい、医師とも連携を図っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のご意向をご家族(ご本人のご意向も含む)に書面にて戴き、再確認を取りながらより良い方向性を導けるよう、主治医との連携を図り支援している。	看取り介護に関する指針を作成し、入居時に書面で意向を確認している。摂取量等を家族に報告し、状態悪化の際は、医師からも家族に説明してもらい、再度緊急時における意向も確認している。職員で方針を共有し、看護師が個別で看取りの対応を指導している。看取り後は、振り返りの時間をもちフォローも行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日の申し送りや毎月の会議にて各利用者様の状態把握と理解に努めている。介護職と看護師が連携を図り急変時の対応に備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害や火災想定避難訓練、通報訓練、消火訓練を年2回以上実施予定としている。地域との連携や利用者様の参加を得ながら実施している。	緊急用滑り台を使い利用者も参加し、時間計測し避難訓練を実施している。BCPIは現在作成中であり、食料品、毛布やオムツ等を備蓄している。地域の方に避難訓練の様子をみてもらい、防火設備関連の職員の協力も得られているが、夜間想定訓練が未実施であった。	非常時に限られた人数で適切な誘導や動きができるように、ユニット間で協力しながら、夜間想定訓練を実施されたい。

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で接遇の見直し等を行い、利用者様に対して不適切ケアにならないよう努めている。プライバシーを確保しつつ利用者様を尊重した声掛けを行い、安心して過ごして頂けるよう配慮している。	接遇研修を定期的実施し、利用者を尊重し思いやりの気持ちで接するよう努めている。声かけ等について啓発ポスターを目に付くところに掲示し、意識づけできるようにしている。居室入口に暖簾をかけ、プライバシーに配慮している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様・ご家族とのコミュニケーションを大切に、思いやご希望に沿った関わりが出来るよう努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせ、その方が安心して過ごせる場所で過ごして頂けるよう配慮している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策の為、現在は利用者様とは時間をずらし距離を取って食べるようにしている。可能な範囲で感染症対策を取りながら、食事の準備、片付け等に参加して頂くよう促している。	利用者の好みを聞き、季節毎の行事食を取り入れ旬の食材を使い提供している。野菜の訪問販売で利用者と一緒に選んだ野菜や、プランターで育てた野菜も調理し食べている。リクエストに応じた手作りおやつやテイクアウトも利用し、食事が楽しくなるようにしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせて食形態を検討し提供している。食事、水分摂取量を介護記録へ記載し摂取状況の把握をしている。又、月に1回は体重測定を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導、見守り、介助を行っている。歯ブラシ、口腔スポンジ、ウエットティ等、個々に合わせたケア用品を準備しケアしている。	利用者の口腔状態に合わせて、毎食後、口腔ケアを行っている。その人の状態や能力に合わせて、見守りや介助し口の中が清潔に保てるようにしている。洗浄消毒した義歯は、夜間預かっている。口ずさめる童謡や演歌を流したり、食前に嚥下体操を実施し、口腔機能の維持に努めている。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターンや尿量等の把握に努め、個々に合わせた介助に努めている。布パンツへの移行や利用者様が安心出来る対応に心掛けている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は入浴して頂けるよう支援している。利用者様の身体状態に合わせ、一般浴と特殊浴で対応している。入浴中はリラックスや気分転換が出来るよう利用者様に合わせて援助している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調を確認しながら、昼間も居室で休んで頂く時間を取っている。夜間は利用者様の様子や就寝時間に合わせて介助させて頂いている。安心して休んで頂ける環境、雰囲気づくりに努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師にて配薬、服用前に職員間で確認を行い介助を行っている。状態変化等があれば、看護師へ報告、医師の指示を受ける等の対応をしている。	訪問薬剤管理指導を利用している。介護マニュアルに沿い、服薬時の名前確認を二重にして看護師が介助し、飲み込みまで確認している。飲み込みにくい場合は、随時、医師に相談し、飲み込みやすい形状に変更してもらっている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や生活習慣、嗜好を伺い日々の生活に取り入れるよう努めている。洗濯物干しや片付け等、出来る範囲の家事を職員と一緒にやっている。	洗濯物干しやたたみ、拭き掃除、花壇やプランターの水やり・収穫・草取りをする等、役割としてやってもらっている。レクリエーションへの参加、飲み物の選択、塗り絵や編み物等、個別の嗜好に合わせて、日中活動に参加してもらっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は面会を予約制としており制限をさせて頂いている。ご家族との外出は行ってない。スタッフ対応にて施設周辺の散歩等を行い気分転換を図っている。	近隣の学校や保育園を行き先にして散歩している。道中で住民の方と会話したり、季節の花を見たりしている。駐車場に野菜の販売車が来ると、気分転換も兼ねて一緒に品定めしている。洗濯物干し、プランターの水やりや草取り、ベランダに出る等で外気に触れる機会を作っている。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理されている方はみえない。必要な物はご家族と相談し対応している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、ご家族の希望に合わせ電話の取次ぎを行ったり、代弁にて双方に要件をお伝えするよう対応している。又、ご家族へは毎月の手紙や写真にてご様子をお伝えし、必要時は電話にて状況等をお伝えするようになっている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や空調の調節を行い、利用者様が快適に過ごして頂けるよう努めている。食事の席は利用者様が迷われないよう、利用者様の関係を把握し配置させて頂いている。	行事の写真や季節毎の作品をリビングや廊下に展示している。夏祭りには提灯を吊り下げ、浴衣を着て楽しんでいる。日刊紙をとり、料理、図鑑、絵本や週刊誌等を置いて、自由に読めるようにしている。季節の気温差には、ヨシズで日差しを遮ったり、膝掛けの利用等で居心地良く過ごせるようにしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を把握し、リビングでの自席をご用意している。又、ソファを自由に使って頂けるよう状況に合わせて声掛け等行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みのある家具や寝具、ご家族やご友人との写真を飾っている。居室にTVを設置しお一人での時間も確保出来るよう配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は国道に面しており、安全面からもテンキーロック式になっている。開閉に制限がある分、施設内での行動には窮屈さを与えないよう配慮し見守りを行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社 共壽		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町村受理日	令和5年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192100150-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192100150-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年8月28日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働けている(参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議（現在は各ユニット毎）にて、理念の唱和と職員の心得の唱和をしている。又、職員の目の付く場所に掲示し理念の浸透を図り日頃のケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩や保育園、小中学校との関わりが持てるように取り組んでいる。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面にて報告を行い、返信にてご意見やご要望をお聞きしていた。今年度は6月末より対面での会議を再開することとなった。ご意見を頂き、今後活かせるよう取り組んでいる。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢課、地域包括と連携を取り合えるようにしている。運営推進会議に担当者の方へ出席（返信）頂き対応をお願いしている。市事業者連絡会等への参加をし情報を得られるよう取り組んでいる。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や委員会からの情報を基に、職員へ報告・勉強会を開催しケアに繋げている。定期的にチェックリストでの振り返りやケアの振り返りシートを活用し取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会が中心となりケアの振り返りシートの活用、適正審査会の実施を行い虐待防止に取り組んでいる。拘束や虐待に繋がらないよう取り組み、職員間でも毎月の会議で話し合いをし防止に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や資料を活用し勉強会を行い、必要に応じて活用出来るよう努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時は説明を行い、書面にて承諾を得ている。ご質問等には窓口を設置し電話や対面での対応が出来るよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートの実施や運営推進会議での意見交換、面会時や電話でもご意見ご要望をお聞きし、運営に反映出来るよう取り組んでいる。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員個別面談を実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。ユニット会議でも意見交換や発言出来る場をつくり、業務の改善や運営に繋げていけるよう努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員面談、幹部面談を行い意見や要望、提案を聞く機会を設けている。各職員の事情を踏まえた雇用形態、休日希望を配慮し働きやすい職場環境づくりに努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外部研修の年間計画を立て、参加した職員には研修費・給与を発生し一人でも多くの職員が受講し学べる機会を確保出来るよう努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	執行部会議にて法人内の他事業所との情報交換や委員会を通して勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を大切に、ご本人のご意向や思いに寄り添いながら、信頼関係を築けるよう努めている。安心して共に暮らせる関係づくりにと努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴・生活習慣、嗜好等をお聞きしご希望に添えるよう努めている。ご本人からお聞き出来ない場合はご家族や関係者の方からの情報を頂き日々のケアに繋げている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議での意見を基にご本人、ご家族とお話し、より良い生活になるよう努めている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリング、担当者会議、毎日の申し送り等で気づきを共有しケアや介護計画に活かしている。介護記録にもご本人の様子や会話した内容等を記載し日々の様子が分かるようにしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご要望をお聞きしながら、施設で対応出来るサービスを検討し取り組んでいる。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防の巡回、意見交換をさせて頂き、安心・安全に暮らせるよう支援している。感染状況を見ながら今後はボランティアや地域との関わりを持っていきたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定を行い、異常の早期発見に努めている。定期的な往診を受け、日頃の体調管理に努めている。必要時には専門医療機関に受診出来るよう支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は看護サマリーや介護計画書を持参し病院と情報共有を行い連携に努めている。退院後も施設での生活に困られないよう病院、主治医との連携を図っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のご意向をご家族(ご本人のご意向も含む)に書面にて戴き、再確認を取りながらより良い方向性を導けるよう、主治医との連携を図り支援している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日の申し送りや毎月の会議にて各利用者様の状態把握と理解に努めている。介護職と看護師が連携を図り急変時の対応に備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害や火災想定避難訓練、通報訓練、消火訓練を年2回以上実施予定としている。地域との連携や利用者様の参加を得ながら実施している。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で接遇の見直し等を行い、利用者様に対して不適切ケアにならないよう努めている。プライバシーを確保しつつ利用者様を尊重した声掛けを行い、安心して過ごして頂けるよう配慮している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様・ご家族とのコミュニケーションを大切にし、思いやご希望に沿った関わりが出来るよう努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせ、その方が安心して過ごせる場所で過ごして頂けるよう配慮している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策の為、現在は利用者様とは時間をずらし距離を取って食べるようにしている。可能な範囲で感染症対策を取りながら、食事の準備、片付け等に参加して頂くよう促している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせ食形態を検討し提供している。食事、水分摂取量を介護記録へ記載し摂取状況の把握をしている。又、月に1回は体重測定を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導、見守り、介助を行っている。歯ブラシ、口腔スポンジ、ウエットティ等、個々に合わせたケア用品を準備しケアしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターンや尿量等の把握に努め、個々に合わせた介助に努めている。布パンツへの移行や利用者様が安心して出る対応に心掛けている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は入浴して頂けるよう支援している。利用者様の身体状態に合わせて、一般浴と特殊浴で対応している。入浴中はリラックスや気分転換が出来るよう利用者様に合わせて援助している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調を確認しながら、昼間も居室で休んで頂く時間を取っている。夜間は利用者様の様子や就寝時間に合わせて介助させて頂いている。安心して休んで頂ける環境、雰囲気づくりに努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師にて配薬、服用前に職員間で確認を行い介助を行っている。状態変化等があれば、看護師へ報告、医師の指示を受ける等の対応をしている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や生活習慣、嗜好を伺い日々の生活に取り入れるよう努めている。買い物が好きな方には移動販売訪問時にスタッフと一緒に買い物へお誘いしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は面会を予約制としており制限をさせて頂いている。ご家族との外出は行っていない。スタッフ対応にて施設周辺の散歩等を行い気分転換を図っている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理されている方はみえない。必要な物はご家族と相談し対応している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、ご家族の希望に合わせ電話の取次ぎを行ったり、代弁にて双方に要件をお伝えするよう対応している。又、ご家族へは毎月の手紙や写真にてご様子をお伝えし、必要時は電話にて状況等をお伝えするようになっている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や空調の調節を行い、利用者様が快適に過ごして頂けるよう努めている。食事の席は利用者様が迷われないよう、利用者様の関係を把握し配置させて頂いている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を把握し、リビングでの自席をご用意している。又、ソファを自由に使って頂けるよう状況に合わせて声掛け等行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みのある家具や寝具、ご家族やご友人との写真を飾っている。毎日、清掃や環境整備を行い、快適に過ごして頂けるように努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADL・嗜好等に合わせた活動の実施、家事や軽作業等に役割を持ち、生活の中に自信や楽しみが持てるよう援助している。		